

**【学校教育目標】**  
 確かな学力と豊かな心を持ち、地域を愛するたくましい児童の育成

**【本年度の重点目標】**  
 ◎自分の考えを表現できる児童の育成(授業改善:思考活動、書く活動、振り返り活動)  
 ◎人を大切にし、人から信頼される児童の育成  
 (挨拶・言葉づかい・態度)(地域の人材・施設・行事等とのふれあい)

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
校内組織運営の充実	1 職員の協働体制を充実する。 (結果)事前に管理職と部長との協議や運営委員会を行い、各部の取組が学校の重点目標達成のためであることを教職員と共有できた。教員のAB評価 100%	4	・職員の評価から協働体制が組織されていると感じた。 ・様々な行事に参加して、校長先生を中心に先生方のまとまりが感じられた。	□これまで同様に教職員がやりがいを感じ、職務に専念できるよう風通しのよい職場環境に努める。 □各組織における取組のねらいの共有と具体策の更なる具体化及び役割の明確化と効率化を推進する。
	2 PDCAのサイクルによるマネジメントを行い、改善につなぐ。 (結果)「CAP・Dシート」を活用し、月ごとの具体策に係ごとに明確にした。そして、確実に実行できたかの評価と改善を明確にし、月ごとのサイクルを回してきた。教員AB評価 100%	4	・短期でのサイクル機能化を点検することができているようです。	□「CAP・Dシート」の活用を継続する。教育指導計画書の計画との整合を確かめたり、付加修正を加えたりするよう小中一貫教育を見据えた指導と助言に努める。
	学力向上プランの推進を図る。 (結果)習熟度別分割授業、基礎基本の定着を図る取り組み、読解力を高める取組やMIM、漢字・算数検定を実施し、成果が見られた。また、単元テストの国語科・算数科の通過率(正答期待率を通過した児童の割合)に重点を置き、通過率を根拠に学力向上プランの進捗状況を職員で確認していった。教員AB評価 98%	4	・子どもたちの落ち着き、成長。学習参観での保護者のアンケートの満足度が非常に高い。先生方が日々の授業づくりを力を入れてあることが伝わってきます。先生方頑張ってください。 ・通過率に重点を置き、そのための取組のそのための組織化が重要である。	□読解力を高める取り組み、習熟度別授業、MIM、漢字・算数検定は継続実施。 □週末課題の自己選択・個別化も継続実施。一人一端末を活用した週末課題の設定。 □日常的な授業改善を継続的に行う。特に、学力向上プランを中心に進める仕組みを整備する。
	いじめ問題に組織的に取り組む。 (結果)いじめ・生活アンケートを計画通り実施できた。毎回、係が集約し、個人の変容をとらえることで、児童の様子を把握してきた。いじめの事案が発生したが早期発見・早期解決できた。教員AB評価 100%	4	・組織的な体制で的確な対応ができていると思う。 ・いじめは「どの学校にも、どの学級にも起こりうる」と言われています。アンケート等を通して早期発見・早期解決ができて本当に良かったです。	□保護者に学校の取組を説明する機会を増やしていく。 □「SOSの出し方に関する教育」を継続する。 □保護者と学ぶ学習を設定する。 □教育相談週間を保護者にも知らせる。 □心の教育を推進する年間計画の見直しを行う。
	総合所見 学力向上推進委員会を中心として、短期検証改善サイクルを循環できた。特に、読解力の向上を図る取組を計画的に実施できた。データをもとにした取り組みを継続する。生徒指導委員会も定例実施でき、不登校兆候の児童についての共通理解・共通対応を進めることができた。各部の推進については、CAP・Dシートにより取り組みの進捗を確認しながら進めてきた。来年度も取組を継続する。			
	や	1 「学校は楽しい。」という子どもを育成する。 (結果)多くの児童が学校は楽しいと答えている。児童AB評価 94% 教員AB評価 100%【総合 97%】	4	・児童参加型で行きたくなる学校、待ち遠しい学級になる取組ができていると思う。 ・学級内の児童の友達関係や担任の先生との人間関係がきつとうまくいっているのだろうと思います。
2 縦割りで楽しく活動する子どもを育てる。 (結果)コロナ禍ではあったが、高学年が主体的な活動を創造し、ふれあいができる縦割りの活動が実現できた。活動後や学期末には、グループや班を単位にふり返りを行うことができた。児童AB評価 93% 教員AB評価 100%【総合 97%】		4	・コロナ禍での制約が解除されていく中ではあるが、感染拡大に留意しながらも活発な活動が求められると思う。 ・下小フェスティバルなどで、縦割りの活動が機能していると感じた。	□感染症対策を講じ、中止してきた取組の再開を目指す。 □各学年の発達の段階に応じた縦割りの活動における立ち位置を整理し、個人としての振り返りを充実させる取り組みを継続する。
3 自分から進んであいさつをする子どもを育てる。 (結果)あいさつ週間を設けて委員会や登校班ごとに、朝から昇降口前に立つことができた。児童AB評価 91% 教員AB評価 94%【総合 93%】		4	・学校近くですれ違った高学年の女子児童が進んで「こんにちは」とあいさつをしてました。一日気分がよかったです。 ・学校内での評価は高いが、学校外ではできていない声を聞く。もう少し厳しく指導してもよいと思う。	□あいさつ週間は、継続実施。あいさつに個人差があるので個別の指導も行っていく。 □道徳科における学習を充実させ、挨拶の価値をしっかりと学習させる。そして、生活の中で実践し、評価できるようにする。
4 人が傷つく言葉を言わない子どもを育てる。 (結果)全校で言葉についての学習が実施できた。児童の実態から、発達段階に応じた取組を継続していく。児童AB評価 93% 教員AB評価 87%【総合90%】		4	・メディアに対しての取組の見直しや時間の徹底が必要である。 ・人が喜んでくれる、元気になる言葉が増えるといいですね。	□言葉に特化した人権学習を早い時期に計画・実施する。 □道徳教育、人権教育を充実させ、言葉の重みについて考えさせる。 □PTAと連携して、言葉遣いの大切さについての取組を行う。
5 「ありがとう」「ごめんない」「はい」が素直に言える子を育てる。 (結果)言葉の大切さについて、学年に応じた指導ができた。個の特性に応じた対応が必要である。児童AB評価91% 教員AB評価92%【総合 92%】		4	・挨拶の評価が高いので落ち着いて学校生活ができていると感じました。	□道徳教育推進教師を中心として取り組みの評価・改善を図る。 □積極的な生徒指導として、子どもたちのよい姿には賞賛と励ましを行っていく。
総合所見 6年生が最上級生としての意識を高め、縦割りの活動に向き合うことができた。コロナ禍で行事が制限される中、6年生が中心となり、できないことではなく、できることを考え、工夫してみんなで楽しめる活動をたくさん生み出していくことができた。言葉遣いのトラブルを全校の課題ととらえ、みんなで考えあう学習を継続していく必要がある。				

見	1 先生や友だちの話を聞く子どもを育てる。 (結果)先生や友だちの話を落ち着いて聞く習慣が概ね定着している。 児童AB評価 94% 教員AB評価 100%【総合97%】	4	・学習参観で先生の話をしっかり聞く姿を見ることができよかった。	□話す・聞くの指導について全職員で年度当初共通理解し、評価・改善を図る。
	2 自分の考えを書いたり、進んで発表したりする子どもを育てる。 (結果)自分の考えを書く、表現する基となる思考力を付けるため、主題研修として思考活動の設定に全職員で取り組み、研究の成果を発表することができた。 児童AB評価 91% 教員AB評価 100%【総合96%】	4	・取組を継続する。	□主題研修を中心に各単元において、「書く活動」と「交流する活動」を位置づけ実施する。 □学力検査の結果を基に、各学年に応じた重点的な取組を検討していく。
	3 図書館の本をたくさん読む子どもを育成する。 (結果)「うちどく」の取組、図書委員会の活動、てんとう虫号、読み聞かせ、読書習慣の確立につながる取組を実施できた。読書祭では、多くの取り組みがなされ、全学年で多読賞の児童を表彰することができた。 児童AB評価 89% 教員AB評価 98%【総合 94%】	4	・この項目があることがとても素晴らしい。ぜひ、100%となるよう取り組んでいただきたい。 ・本を読むことで多くの利点があるので、継続して取り組んでほしい。	□継続実施する。 □教科学習における図書の活用を促すとともに、読んだ本の記録を忘れないようにさせる。 □朝の読書タイムがなくなることから、隙間読書や週末の読書を推奨していく。
	4 下山田や嘉麻市の「ひと・もの・こと」を活用して、地域のことを楽しく学ぶ子を育てる。 (結果)新型コロナ感染症対策により、地域の方との交流や地域資源の活用が制限されたが、コミュニティ・スクールとして発足した今年度は、年度当初計画した活動を実施することができた。児童AB評価96% 教員AB評価100%【総合 98%】	4	・コミュニティ・スクールの取組で地域の方とつながりを持てたことがよかったと思う。 ・子どもたちがいろいろな場面で、下山田の特徴を生かし、地域の方々とふれあい、学習や体験活動に励んでいる様子がSC通信を通じて伝わってきました。	□「社会に開かれた教育課程」として今年度の取組の評価・改善を行っていく。 □公民館との情報共有に努め、新たな取組の構築を図る。 □コミュニティ・スクールを中心に持続可能な仕組みを構築する。
	5 家庭で約束の時間、学習できる子どもを育てる。 (結果)毎日の家庭学習の時間の平均が目標に届いていない学年はなかった。土日に学習できている児童が96%。嘉麻市の目標指数をクリアできなかった。 児童AB評価85% 教員AB評価95%【総合 90%】	4	・一日のタイムスケジュールを自己管理できる基本的な習慣をこの時期からしっかりとつけておくことが大切である。 ・PTAと協力し、家庭学習の大切さを浸透してはどうか。	□週末の一人一台端末の活用を計画的に実施し質的・量的管理を行う。 □家庭学習の進め等をPTAと連携して、取組を強化する。
	総合所見	社会に開かれた教育課程の実現をめざし、コミュニティ・スクールの推進を図るための地域資源の活用について、教育課程の中に位置づけることができた。家庭学習の指導については、学年での格差が出ないよう、昨年度の反省を基に取り組むことができた。学力向上委員会がPDCAサイクルを回し、特に「D」の徹底を図るようにする。家庭学習に対して、家庭と連携する取り組みが必要である。		
ま ま な ぶ 子	1 学校を休まないように気をつける子どもを育てる。 (結果)2月時点で、不登校児童0。不登校兆候児童2名。 児童AB評価94% 教員AB評価81%【総合 88%】	4	・保護者への啓発が必要である。保護者と連携し、子どもたちを励ます声かけが増えるといいと思います。 ・積極的に取り組んでいただいていると思う。学校でたのしく過ごすことができていると思う。	□アクション3に基づく取組を再確認し、継続する。 □不登校兆候児童へのマンツーマン方式の採用と生徒指導委員会での情報共有に努める。
	2 元気よく外で遊ぶ子どもを育てる。 (結果)休み時間は外で遊ぶ姿が多く見られ、体育委員会や学級での取り組みの工夫により、みんなで元気に遊ぶ機会を多くつくることができた。 児童AB評価 90% 教員AB評価 90%【総合 90%】	4	・休み時間だけでなく登校直後から校庭で寒中遊ぶ姿が多くみられる。今後も続けてほしい。 ・休みの日でも外で遊ぶ姿が見られた。	□体力アップシートの確実な活用により、外遊びを推奨する。 □子どもの創意工夫した活動を活かしていく。 □児童会を活性化し、子どもの意見を取り入れていく。
	3 掃除の時間、一生懸命がんばる子どもを育てる。 (結果)掃除頑張り週間の設定や縦割り掃除では、主体的に掃除の活動を展開できた。教師のほめる働きかけにより一生懸命頑張る姿が見られた。 児童AB評価 92% 教員AB評価 94%【総合 93%】	4	・評価する場、機会を設定することは、とても大切である。自分のよさを見つけることが自己肯定感を高めると思う。	□校舎内外のどこが汚れているのかを意識する活動を仕組む。 □縦割り掃除の計画的な実施に努める。 □掃除強化週間を設定し、啓発に努める。
	4「早寝・早起き・朝ごはん」ができる子どもを育てる。 (結果)PTAの「スマイリーノート」の取り組みと連携して、基本的な生活習慣を身につける取り組みを実施した。 児童AB評価 84% 教員AB評価 94%【総合 89%】	4	・とても大切で意味ある取組であると思う。 ・スマイリーノートを意味あるものにするため、学校からの声かけや啓発が重要である。 ・期間中だけでなく、日頃からPTAと連携した取組が必要。	□PTAの「新家庭教育宣言」の取組を有効活用しながら、「早寝」を推進する内容を家庭への啓発を行う。 □中校区の取組であるノーマディアの取組を継続する。
	5 安全に注意して登下校できる子どもを育てる。 (結果)大多数の児童は、安全に気をつけて生活できている。 児童AB評価 95% 教員AB評価 98%【総合 97%】	4	・安全指導の徹底を図る必要がある。 ・不審者への対応を意図的・計画的に指導してほしい。	□交通安全教室・防犯教室等)を活用しながら、日常の安全教育を徹底する。 □毎月の登校指導日に、安全確保の観点で点検する。 □通学路の定期的な点検を実施、危険個所の把握と改善に努める。
総合所見	コロナ禍であったが、交通安全教室を実施することができた。登下校時には保護者や地域の方の協力が得られている。生活の評価・改善については、強化週間を節目としながらも、日々、自らの生活を省みる態度の形成を目指す。また、個に応じた指導や対応について、継続していく。			
た た く ま し い 子	1 先生や友だちの話を聞く子どもを育てる。 (結果)先生や友だちの話を落ち着いて聞く習慣が概ね定着している。 児童AB評価 94% 教員AB評価 100%【総合97%】	4	・学習参観で先生の話をしっかり聞く姿を見ることができよかった。	□話す・聞くの指導について全職員で年度当初共通理解し、評価・改善を図る。
	2 自分の考えを書いたり、進んで発表したりする子どもを育てる。 (結果)自分の考えを書く、表現する基となる思考力を付けるため、主題研修として思考活動の設定に全職員で取り組み、研究の成果を発表することができた。 児童AB評価 91% 教員AB評価 100%【総合96%】	4	・取組を継続する。	□主題研修を中心に各単元において、「書く活動」と「交流する活動」を位置づけ実施する。 □学力検査の結果を基に、各学年に応じた重点的な取組を検討していく。
	3 図書館の本をたくさん読む子どもを育成する。 (結果)「うちどく」の取組、図書委員会の活動、てんとう虫号、読み聞かせ、読書習慣の確立につながる取組を実施できた。読書祭では、多くの取り組みがなされ、全学年で多読賞の児童を表彰することができた。 児童AB評価 89% 教員AB評価 98%【総合 94%】	4	・この項目があることがとても素晴らしい。ぜひ、100%となるよう取り組んでいただきたい。 ・本を読むことで多くの利点があるので、継続して取り組んでほしい。	□継続実施する。 □教科学習における図書の活用を促すとともに、読んだ本の記録を忘れないようにさせる。 □朝の読書タイムがなくなることから、隙間読書や週末の読書を推奨していく。
	4 下山田や嘉麻市の「ひと・もの・こと」を活用して、地域のことを楽しく学ぶ子を育てる。 (結果)新型コロナ感染症対策により、地域の方との交流や地域資源の活用が制限されたが、コミュニティ・スクールとして発足した今年度は、年度当初計画した活動を実施することができた。児童AB評価96% 教員AB評価100%【総合 98%】	4	・コミュニティ・スクールの取組で地域の方とつながりを持てたことがよかったと思う。 ・子どもたちがいろいろな場面で、下山田の特徴を生かし、地域の方々とふれあい、学習や体験活動に励んでいる様子がSC通信を通じて伝わってきました。	□「社会に開かれた教育課程」として今年度の取組の評価・改善を行っていく。 □公民館との情報共有に努め、新たな取組の構築を図る。 □コミュニティ・スクールを中心に持続可能な仕組みを構築する。
	5 家庭で約束の時間、学習できる子どもを育てる。 (結果)毎日の家庭学習の時間の平均が目標に届いていない学年はなかった。土日に学習できている児童が96%。嘉麻市の目標指数をクリアできなかった。 児童AB評価85% 教員AB評価95%【総合 90%】	4	・一日のタイムスケジュールを自己管理できる基本的な習慣をこの時期からしっかりとつけておくことが大切である。 ・PTAと協力し、家庭学習の大切さを浸透してはどうか。	□週末の一人一台端末の活用を計画的に実施し質的・量的管理を行う。 □家庭学習の進め等をPTAと連携して、取組を強化する。
総合所見	社会に開かれた教育課程の実現をめざし、コミュニティ・スクールの推進を図るための地域資源の活用について、教育課程の中に位置づけることができた。家庭学習の指導については、学年での格差が出ないよう、昨年度の反省を基に取り組むことができた。学力向上委員会がPDCAサイクルを回し、特に「D」の徹底を図るようにする。家庭学習に対して、家庭と連携する取り組みが必要である。			